

## 学年末確認テスト講評(中1生)

### ●英語●

#### ・中1選抜東大英語(1EJSS)

今回のテストは、本科3期で習ったことを中心に出題しています。

There is/are ~の文や比較の基本的内容は身につけている人が多いようですが、間違えてしまった問題については正解を確認するだけでなく、英文ごと何度も音読や筆記を繰り返し、しっかりと定着させましょう。

全体の得点状況を見てみると、大問4の並べ替え(1語不足)と大問5の和文英訳で得点に差が見られました。特に今回はこの2つの大問で思うように点数を取れなかった人が多かったようです。

選抜クラスの皆さんは特に、英語と日本語を自在に行き来できる力をぜひ積極的に伸ばしてほしいと思っています。この1年間で学習した各単元の基本例文を確実に頭に入れ、暗唱できるようにしておきましょう。

2年生になると、中学英語の核となる重要単元が次々と出てきます。毎週の授業の復習をしっかりと行い、理解があいまいな部分を残さないように心がけましょう。

#### ・中1英語(1EJS)

今回のテストは、本科3期で習ったことを中心に出題しています。学習してきたことはきちんと身につけているでしょうか。

1と2[A]は基本的な単語・文法問題です。ここで間違えている人は、復習不足！完璧にできるようになるまでやり直しをしましょう。

3と4では、日ごろ学習している基本例文がどれだけ使えるようになっているかが問われています。特に4の[B]では失点している人が多かったので、解答をきちんと確認しておいてください。空所補充や並べ替えができることだけではなく、自分で英語と日本語を自在に行き来できる力を持つことを目標としていきましょう。

2年生からは、さらに難しい単語や文法を学習します。毎週習ったことをきちんと復習し、翌週までに基本例文を覚えるという学習サイクルを身につけていれば、心配はいりません。英語で表現できる幅をさらに広げていきましょう。

## ●数学●

### ・中1選抜東大・医学部数学(1MJSS)

1MJSS学年末確認テストでは、本科3期に学んだ内容を中心に出题しました。

【1】は展開・根号計算、【2】は因数分解、【3】は2次方程式の基本的な問題だったのですが、まずまずの出来でした。ここで点を大きく失った人は、毎週の補充問題中での、計算問題に対する演習不足、復習不足があったと思われるので気を引き締めましょう。

【4】は2次方程式を応用した文章題でした。これも補充問題の類題で、しっかり復習していれば解けるはずですが、出来は悪かったです。(1)は「和と積の式から、片方の文字を消去すると2次方程式が得られる」こと、(2)は「どの文字に注目すれば2次方程式をうまく立てられるか」が鍵になります。出来なかった人は解き直しをしましょう。

【5】は2乗に比例する関数と図形の応用問題でしたが、これも補充問題の類題です。「直線・放物線の式を連立して解けば、交点の座標が求まる」ことはまずまず理解できていましたが、図形の性質を用いて直線の式を求めるという「図形→式」の頭の使い方がまだできていない人が多かったです。図形から計算へ結びつけるのは難しいですが、「座標」は今後の数学でもたくさんでてきます。今のうちに扱いに慣れましょう。

【6】は応用問題です。(1)は「解と係数の関係」の証明ですが、これは「知っている」かを問うているのではなく、「与えられた関係式を、別の問題に応用できるか」ということを問うています。このような「見たことのない数式や性質が提示され、それを用いて別の問題を解く」という形式は、東大や京大といった最難関大の入試数学、理科でも多く見られます。未知のものの本質を理解し、別のものに応用できる柔軟な思考力をこれからも養っていきましょう。

### ・中1数学(1MJS)

今回の試験は、後半に図形の証明問題が続き、記述量も多かったので「時間が足りなかった」という人もいるのではないのでしょうか。大問別の平均点も、その影響か後半の問題については低かったです。試験中に手が付けられなかった問題に関しても、復習の際はまずは自力で解いてみましょう。

大問ごとに見ていくと、【1】は一次方程式中の定数を求める問題、【3】は平行四辺形・ひし形の性質を用いた求値問題、【4】は証明中の空所補充問題で、いずれもまずまずの出来でした。その一方で、【2】【6】【7】の図形の証明問題に関しては、出来が悪かったです。特に【6】【7】は時間不足もあってか、出来ている人はほとんどいませんでした。数学における「証明」や「記述」はまだ皆さんにとっては慣れない作業かもしれませんが、この先の数学をやるうえで「記述力」は絶対に必要な力になりますので、訓練だと思って解き直しは必ず行ってください。

特に【2】の「補助線を引くことで合同な三角形を自分で作る」という発想や、【6】の「平行四辺形の性質を用いて等しい長さや角度を自分で見つけ出す」という発想は非常に重要です。よく復習しておきましょう。